

アニリン（劇物）を用いない Azan 染色の検討

◎大塚 滉¹⁾、中嶋 綾香¹⁾、尾崎 理那²⁾、梅田 幸奈²⁾、原田 隼兵³⁾、川島 佳晃¹⁾、浦野 誠⁴⁾
藤田医科大学ばんだね病院 病理部¹⁾、藤田医科大学病院 病理部²⁾、藤田医科大学岡崎医療センター 病理部³⁾、藤田医科大学ばんだね病院 病理診断科⁴⁾

【目的】病理検査における各種染色は人体や自然環境に有害な物質の使用が多く、当院の Azan 染色もアニリン（劇物）を用いている。今回、有害性の問題からアニリンを用いないプロトコルの確立を目的とし、従来法と同等の染色性になるよう検討した。

【対象及び方法】10%中性緩衝ホルマリン固定後の心臓（生検材料）及び肝臓（手術材料）を、切片厚 2 μ m で標本作製した。

従来法：(1) アゾカルミン G 液 60°C60 分+室温 60 分、(2) 水洗数秒、(3) アニリンアルコールで分別、(4) 酢酸アルコールで分別停止、(5) 水洗+検鏡し必要に応じて再度分別、(6) リンタングステン酸 120 分、(7) 水洗数秒、(8) アニリン青オレンジ G 液 50 分

この従来法を基に、アゾカルミン G 液、水洗、リンタングステン酸の温度や時間の条件を検討し、染色性を比較した。また、藤田医科大学病院群間でアンケート調査を行い、染色性を評価した。

【結果】加温したアゾカルミン G 液は、その後の水洗（分

別）及びリンタングステン酸（媒染）による脱色が室温条件下よりも色素（赤）が抜けにくかった。アゾカルミン G 液後の水洗操作を 5~10 分にすることで、赤色が適度な染色性となった。今回の検討結果で、(1) アゾカルミン G 液 60°C60 分、(2) 水洗 5~10 分、(3) リンタングステン酸 120 分、(4) 水洗数秒、(5) アニリン青オレンジ G 液 40 分の条件下で従来法と同等の染色性になり、アニリンアルコールの分別操作が不要になった。アンケート結果は当日報告する。

【考察】加温条件がアゾカルミン G の組織内保持に大きく作用し、Azan 染色の染色性を左右すると考えた。アゾカルミン G 液染色後の水洗を 5~10 分にすることで、アニリンアルコールでの分別操作の代用になった。

【結語】アゾカルミン G 液、アゾカルミン G 液後の水洗、リンタングステン酸の温度や時間を調整することでアニリン（劇物）を用いない染色プロトコルを確立できた。また、従来のプロトコルよりも時間短縮及び簡素化につながり、業務効率が向上した。 連絡先:052-323-5665